



多彩なプログラムで笑顔あふれる夏まつり  
2017イーブ夏まつり

2017イーブ夏まつりが8月26日に、イーブビーチ公共駐車場で行われました。多くの町民や観光客が訪れ、夏休み最後の週末を楽しみました。ステージでは、なでしこ保育園児の和太鼓に始まり、エイサーやダンス、バンドや民謡などが披露されました。今年は、字イーブの15周年の節目の年で、西表出身の池田卓さん、本町出身の“あかまーみ”など島外からのゲストを迎えて盛大に開催されました。

観光客ダイバーを救助  
那覇海上保安部より感謝状贈呈

7月14日、那覇海上保安部において、久米島漁業協同組合所属の伊集竜太さんと金元竜也さんに感謝状贈呈式が行われました。

これは、6月18日に久米島のダイビングポイント「トンバラ」にてダイビング中の観光客が行方不明になった際に、捜索活動に協力していた伊集さんと金元さんが発見し救助したことによるものです。



観光入客数12万人を目指して  
9月3日は「球美の日」

町では平成22年より9月3日を「久米島観光の日～球美の日～」と定め、久米島観光を広く情報発信し、観光産業の活性化を図っています。今年も9月2日にイベントを開催し、講演会では琉球大学の荒川雅志教授を講師に迎え、ウェルネスツーリズムについて学びました。セレモニーでは、フォトコンテストの表彰式や、く～みんの誕生祝、観光レディー引継・認定式が行われました。また、関連イベントとして「沖縄を変えた男」の上映会も行われました。



福島の子供達とグラウンドゴルフで交流  
比嘉老人クラブ

球美の里（福島の保養施設）の子どもたちと比嘉老人クラブが8月22日、ホテルドームで交流会を行いました。球美の里では通常、未就学児を受け入れていますが、小学校が夏休みなどの長期の休みや連休などには、小中学生を受け入れています。この日も小中学生47人が保養に来ており、グラウンドゴルフで交流しました。また、老人クラブの会員が海や浜辺で拾い集めた、ほら貝などのプレゼントに、子ども達はとて喜んでいました。



久米島の地域資源で商品開発を！  
経営革新強化支援事業

沖縄県の経営革新計画で株式会社與那嶺商会在が採択され、7月27日に承認書が交付されました。

これは、県内中小企業の取り組みを低金利融資制度などで支援するために平成11年度より開始され、これまで約400件が承認されています。與那嶺商会在は久米島産の地域資源を活用した新商品開発・シリーズ商品化で売上向上を図っており、これまでクルマエビやベニイモなどを原料にクッキーや煎餅、ガーリックオリーブオイルなどを製造・販売しています。



みどり丸遭難犠牲者を追悼

8月17日銭田森林公園内「みどり丸遭難犠牲者慰霊之碑」の前において追悼法要が行われ、訪れた関係者は安らかにと手を合わせました。みどり丸は1963年、那覇市泊港から久米島向けに出航し、那覇沖合の海上で大波をかぶり沈没。112人が犠牲となりました。当時アメリカ空軍に所属し、久米島高校で英語のボランティア講師をしていたリチャードさんから4年前に「50年目の法要を勤めてもらいたい」との手紙をもらった本願寺沖繩別院がその年から毎年開催しています。



旧盆エイサー

沖縄の旧盆といえば“エイサー”。久米島でもナカヌヒにあたる9月4日には、字真謝、字宇根、字謝名堂、字比嘉、字真我里、字儀間、字鳥島で、ワークイの9月5日には字嘉手苅で旧盆エイサーが行われました。各地域で内容は様々で、地域を練り歩く「道ジュネ」や、神屋前などで奉納演舞を行ったり、公民館などでエイサー以外にも催しが行われたりと、各字で先祖供養の行事が行われました。



ふるさとへ思いをこめて連続寄附  
仲真良典さんへ感謝状贈呈

久米島町ふるさと納税へ5年連続で高額寄附をした仲真良典さん（久米建設（株）会長）へ、9月5日に仲里庁舎にて感謝状を贈呈しました。仲真さんは字北原出身で、平成24年度から総額95万円を本町へ寄附されました。

大田町長から感謝状を贈られた仲真さんは「久米島の皆さまには、大変お世話になっており、少しでも恩返しができる限り協力していきたいです」と想いを述べました。

